

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501962
法人名	社会福祉法人 悦和会
事業所名	グループホームこうえつ苑
所在地	福岡県北九州市小倉南区沼緑町1-11-21 (電話) 093-471-8215

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年10月23日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	19 人	常勤	5人	非常勤	14人	常勤換算	10.1人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	3階建ての 2 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,350 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	8名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.8歳	最低	77歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かん養生クリニック、渋江医院、くらとみ歯科クリニック、松井病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

軽費老人ホームが母体であり、母体法人の利用者の状態に対応して、一貫した介護を提供することを主たる目的で設置された事業所である。丘の斜面に建築され、陽光が差し込み開放感のある構造となっている。利用者本人と家族の要望を最大限受け入れようとする姿勢を持っており、終末期の利用者に対しても、本人、家族の意向を十分汲み医師と連携して利用者本位に対応している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、外部評価の結果を全職員に報告はしている。外部評価の改善課題を书面化して、全職員で一つひとつの改善方法や経緯について具体的に意見交換し、協働しながら改善して、改善シートとして保存してほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、一部の職員で取り組んでいる。全職員で自己評価を実施する意義を理解し、取り組んでほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催している。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、委員から地域交流の強化の意見が出され、大正琴、フラダンス等のボランティアグループへの声かけを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置している。家族の意見反映として外出、外食への取り組みが強化された事例がある。また、苦情に関する第三者窓口について繰り返し説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	中学校の福祉実習を受入れている。また、地域の保育所、幼稚園の園児の訪問、中学校の吹奏楽部による演奏、地域の文化祭への作品の出品、母体法人と合同で開催する運動会への参加し、地域の人々も参加して交流を図っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげ、利用者のケアに努めているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念をもとに介護実践を行っている。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学校の福祉実習を受入れている。また、地域の保育所、幼稚園の園児の訪問、中学校の吹奏楽部による演奏、地域の文化祭への作品の出品、母体法人と合同で開催する運動会への参加し、地域の人々も参加して交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、一部の職員で取り組んでいる。前回評価での改善課題については、外部評価の結果を全職員に報告はしている。	○	全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して自己評価に取り組んでほしい。外部評価の改善課題を书面化して、全職員で一つひとつの改善方法や経緯について具体的に意見交換し、協働しながら改善して、改善シートとして保存してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、委員から地域交流の強化の意見が出され、大正琴、フラダンス等のボランティアグループへの声かけを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務上の不明点を行政担当者に相談する等の交流はあるが、事業所の近況等を話すまでの連携には至っていない。	○	事業所が抱えている問題の相談や現状を報告する機会をつくる等し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでほしい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用への取り組みは、これからである。	○	全職員が必要に応じて家族等に説明ができるように、制度に関するパンフレットやテキスト等を準備して内部研修等を行い、知識の習得に努めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	事業所便りを3ヶ月に1回発行して、その中に写真や手紙を添付している。また、家族来訪時に暮らしぶりや健康状態等を報告している。緊急時には電話にて臨機応変に対応している。金銭管理については、家族来訪時に金銭出納帳を領収書と一緒に提示し、サインをもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。家族の意見反映として外出、外食への取り組みが強化された事例がある。また、苦情に関する第三者窓口について繰り返し説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ローテーションの組み替えや業務内容の変更を行い、離職を防ぐよう努め、職員の退職時には引継ぎ期間を設けて利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。また、母体法人や事業所の行事等を通じてユニット間での交流を図り、利用者との馴染みの関係を作っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用時には年齢、性別を理由とする排除は行っていない。定年後も働く意欲のある人は、継続して就労可能である。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>新任時に、言葉遣い等の注意事項に関する研修を実施しているが、その後、内部または外部研修への取り組みはない。</p>	○	<p>内部または外部研修への参加の機会を設けて、人権教育を実施してほしい。</p>
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回、内部研修を実施している。母体法人の有資格者が指導する等して、運営者は職員の介護福祉士等の資格取得を推進している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会に加入している。他事業所職員と連絡を取り合い、お互いのスキルアップについての話し合いの機会を持っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には、見学や体験入所を行っている。また、自宅訪問、病院訪問、施設訪問を事前に行っている。やむを得ず即入居の場合は、家族に頻繁な来訪の協力を依頼し、利用者に安心感を持ってもらうよう工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から、漬物の漬け方、洗濯物の干し方、たたみ方、浴衣の着方、調理方法を教わることがある。また、職員は利用者から肩を揉んでもらったり、労わりの声からかけてもらうことがある。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の声かけ、家族からの情報提供を基本に、一人ひとりの思いの把握に努め、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は家族から意見を聴取し、またケアカンファレンス会議(管理者・担当職員)を開いて意見交換をしている。その結果をホーム長に報告し、個別具体的な介護計画を作成している。介護計画には、家族の署名・押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、また利用者の状態の変化に応じて介護計画を見直している。急激な状態変化がある場合は家族に電話で連絡して、了承を得ている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した場合は、早期退院に向けて支援している。病院と連携を図り、必要時には家族とともに説明を聴くようにしている。通院や送迎等必要に応じて個別支援をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、利用前からのかかりつけ医での受診を支援している。通院や送迎は家族が付き添う場合もあるが、臨機応変に職員がそれぞれに支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期のあり方についての方針があり、事業所・家族・医療機関・職員等で話し合い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法について、職員の採用時に説明している。職員は、利用者1人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いに配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日そのときの気持ちを尊重して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に片づけを行っている。職員と利用者が同じテーブルで同じものを食べ、楽しく食事ができるよう雰囲気作りに配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴日及び時間の設定はあるが、毎日入浴できるように支援している。利用者の希望等に合わせ、柔軟に対応して入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒否する利用者については、タイミングを見て言葉かけをしながら、入浴あるいは清拭等の支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	芋掘り、誕生会時のたこ焼き・おはぎ・よもぎ饅頭作り等、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら職員は利用者感謝の気持ちを伝える等、利用者とともに過ごし、学び支え合う関係を築いている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関の前の運動場で日常的に散歩している。週1回の買い物・季節毎のドライブ等、一人ひとりのその日の希望に添って、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠はしていない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、玄関に設置しているチャームを頼ることなく、利用者が外出するときはさりげなく後をついて見守り、共に散歩して帰宅している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、消防署及び業者の協力を得て避難訓練を実施している。また年2回、母体法人与合同で避難訓練を行っている。職員は消火器の使い方や避難誘導及び場所を熟知している。	○	非常時に備え、事業所だけの訓練ではなく、地域住民に参加を呼びかけ、協力を得ながら避難訓練を実施してほしい。また非常用食料・備品の準備をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立・食材は栄養士の指導を受けている、カロリーを献立表に明記し、利用者の状態にあわせて調理している。全利用者の食事摂取量及び水分摂取量は、個別に記録している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日当たりの良い場所にソファを設置し、また、畳敷きのコーナーで寛げるように配慮している。壁には利用者手作りの壁飾りや季節の花を飾る等して、家庭的な雰囲気作りや季節感に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には、使い慣れた鏡台・サイドボード・ロッキングチェア・仏壇等、思い思いの品物を持ち込んでいる。また好きな思い出のぬり絵を壁一面に貼る等、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。